

グラビア	地域を支える人 中田哲也さん・鳥取県	1
発掘!地域の希望のタネ	〈村上市スケートパーク〉新潟県村上市	5
給食のじかん	〈すき昆布の炒め煮〉岩手県花巻市 上條由美+菅原勝江+松原晴美	6
書評	額額厚 著『日本の武器生産と武器輸出 1874～1962』菅原敏夫	8
焦点	東日本大震災と原発事故の被害から復興を進める双葉町	井上智成 10

特集

次なるパンデミックに備えて

座談会	ポストコロナの地方自治 —荒れる社会に何ができるのか—	今井 照	16
インタビュー	コロナ禍から得られた教訓 —救急医療の現場の経験から—	石井耕士+樺澤隼人+ 松浦敬介+前浦穂高	26
	一斉休校時の経験と給食調理員の可能性	大木 恭	38
	コロナ禍における自治体職場の職員配置 —姫路市—	的野泰也	45
	危機を乗り越えるための リスクコミュニケーションと自治体の課題	福田 充	51
寄稿	東日本大震災からの産業再建に対する 公的支援の成果と課題—水産業を中心に—	栗田但馬	57
結びつなげる! しまね自治研	ご当地キャラクターと一緒にPR ～「しまねっこ」と「吉田くん」の紹介～	谷口 悠	64
自治研活動 レポート	職員の「したい」「できる」が出発点 プロセスを楽しむ自治研を始めよう —しまね自治研カウントダウンセミナー—	前田 藍	66
地域おこし 協力隊が行く!	第10回 島根編⑥奥出雲町 『生きててもつまらない問題』を解決したい!	落合孝行	68
	自治研センターの機関誌案内		75
	次号予告・編集部から		76

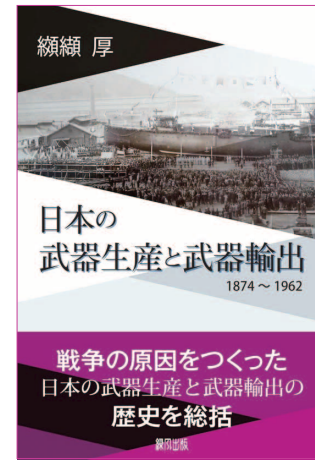


『日本の武器生産と武器輸出 1874～1962』

額額厚 著
緑風出版 三三〇〇円

バブル超え

毎日の生活の実感と経済の数字がこれほど異なっているのは稀だ。この稿を書いている時に株価は過去最高値まで五〇円と報じられた。本誌がお手元に届く頃には過去最高につっかけているかもしれない。「バブル超え」だ。私たちの生活のどこがバブル超えだというのだ。



今発表されている自治体の予算案も「過去最高額」が続出している。内閣府はご丁寧な判定会を開いて日本経済の景気の山と谷を公表している。三〇年も地面を這ってきた景気は二〇年五月に底を打った。今はかなり大きな景気の拡大期にあるそうだが。きっかけは、そう、コロナ禍とウクライナ侵略。一〇〇年前がまさにそうだった。スペイン風邪と第一次大戦。時の政府はロシアへの武器輸出にとりわけ熱心だった。著者は軍需工業動員法などの法整備の重要性を強調する。「死の商人」は「死のロイヤー」を必要とする。

今日の武器輸出

本書を読み始める少し前、政府は「防衛装備移転三原則」を改定し、地对空迎撃ミサイル「パトリオット」をアメリカへ「輸出」する方針を決定した。パトリオットはアメリカのミサイルではないのか? 防衛予算で爆買いしているのかと

思っていた。ところが日本国内でライセンス生産。アメリカがウクライナに供与して手薄になった在庫備蓄を補うというのだ。死のロイヤーの活躍だ。こんなにあっさり武器輸出禁止が破られる。日の丸を（内部に）付けたパトリオットがロシア軍を攻撃するかもしれない。間接的とはいえ、これではウクライナ戦争に参戦したのと同じだ。

軍、財、官、政、学

本書は第一次大戦前から本格化した日本の武器生産・輸出を、軍、財、官、政の総力戦体制構築の中に位置づける五本の論文からなる。著者の仕事の総集編でもある。

ずいぶん昔から著者の論文に親しんできたなあという感慨をもって本書を読み終えた。最後に奥付の上の著者略歴を見たら、書評子と同一年であることが判明した。彼私の学識の差にため息。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員